

# HIGO プログラム選抜試験

2016. 2. 4

HIGO program selective examination for Kumamoto University

## 小論文（日本語版）

試験時間 1時間30分

(15:00~16:30)

Short Article

Duration of examination 90 min

(15:00~16:30)

### 注意事項 Attention

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子は開かないこと。  
Do not open this booklet without the examiner's permission.
2. 問題用紙、解答用紙に乱丁等がないか確認すること。  
Please check to ensure all pages are present in the correct order.
3. 試験問題は2題あります。どちらか1題を選択し解答すること。  
Select either question to be answered among the questions **I**, and **II**.
4. 解答用紙をとじているホッチキスは、はずさないこと。  
Do not remove the staple from the answer sheets.

I 選択的中絶について述べた次の文を読んで以下の問いに答えなさい。

重い障害が予想される胎児の中絶（選択的中絶 selective abortion）について、現存する障害者の存在意義を否定するものであるとの批判が障害者の側から寄せられている。それは次のような推論への批判であると考えられる。

- ① 私の胎児は将来重い障害をもつだろう。
- ② 重い障害を伴って生きるのは本人にとっても家族にとっても耐えがたいので、胎児は生き続けるよりも生まれてこない方がよい。
- ③ ゆえに、私は胎児を中絶したい。

ここでの推論の項②では、障害Aをもって現に生きている人びとを、生まれてこなかった方がよいということで価値づけている。批判はこの点に向けられるのである。私は以前から、この推論を大略以下のように変更することを提案してきた。

- ① 私のこの胎児は将来重い障害Aをもつだろう。
- ② 重い障害Aを伴って生きるのは、この社会の状況が続くかぎり、この胎児の成長後の本人にとっても私の家族にとっても耐えがたいので、この胎児は生き続けるよりも生まれてこない方がよい。
- ③ ゆえに、私はこの胎児を中絶したい。

この後者の実践的推論においては、②のような現存する障害者を巻き込むような一般化を避けて、あくまでこの社会におけるこの私とこの胎児の問題として考えている。

これは「論理」の上で障害者への言及を排除するものであるが、まずはこうした次元での解決が必要であろう。そして次には、重い障害をもっては生きにくい社会の制度の改革や、「この」胎児、「この」私の個別性への依拠を保証するような仕組み（出生前診断や選択的中絶のルーティン化の否定やカウンセリング体制の整備等）の構築を考えていくことになるだろう。

（高橋隆雄『生命・環境・ケア』九州大学出版会 2018年、pp.217-218）

問1. ①から③に至る推論では、なぜ現存する障害者の存在意義の否定を避けられるのか、600字以内でわかりやすく説明しなさい。

問2. 選択的中絶について、自分の考えを600字以内で書きなさい。

Ⅱ ポピュリズムと民主主義の違いについて論じなさい。

(解答用紙 3 枚)